



特集

今、飛躍のとき。

鷹島肥前大橋が開通します

豊かな自然と歴史が息づく鷹島。この鷹島と本土とをつなぐ鷹島肥前大橋が、実に20年という年月を経て、今ようやく夢から現実のものになりました。

大橋開通は、交流人口拡大による地域の活性化を目指す松浦市にとって、まさに観光振興の起爆剤。
今、新しい歴史が始まろうとしています。

大橋開通への道のり

元寇の歴史とともに歩んできた鷹島。島民の生活を向上させるだけでなく、鷹島の歴史を生かす大橋架橋は、鷹島島民にとって夢のような話でした。

○元寇の地、鷹島

鷹島は、県北部に位置し、伊万里湾に浮かぶ17・1平方キロの離島です。内陸部は豊かな緑が広がる緩やかな丘陵地で、豊かな自然に恵まれ、玄海国定公園の一部にも指定されています。

鷹島は、およそ730年前の日本軍と元軍との戦い、いわゆる元寇があった地であり、この鷹島の海こそが伝説の神風が吹いた海なのです。その史実を証明する

ように、島の周囲、特に南側の沖合いには沈没した元軍の艦船が今なお眠っており、元寇から700年以上経った今、遺物の引き上げや研究が進んでいます。

鷹島は、その歴史的重要性から水中考古学の貴重な資源を有する島としても注目されています。また、元寇の際活躍した武士の墓があるなど、元寇の歴史を物語る史跡が島内各地に点在しています。



元寇の犠牲者を慰霊する「元寇記念之碑」（宮地嶽史跡公園）

○不安から希望へ

鷹島は貴重な資源を有する島でありながら、離島であるがゆえの交通の不便さなどから、その資源が十分に生かされないという悩みを抱えていました。また、全国にある離島の多くが抱える交通の不便さや医療・福祉に関する不安、過疎・高齢化の問題は、鷹島においても例外ではありませんでした。

これから先、鷹島はどうなっていくのか。島民の多くが大きな不安を抱えていました。なんとしても鷹島に橋を架け、さまざまに不便さや不安を解決したい。また、鷹島にしかないこの貴重な歴史文化を生かして、何とか島の活性化につなげたい。島民の熱い思いが、昭和63年の鷹島大橋架橋促進期成会設立につながり、島民の大きな希望へと膨らみました。

○未来への架け橋

大橋架橋に向けて本格的に動き出した昭和63年から20年の年月が経った昨年7月23日、大橋に最後の橋げたを取り付ける工事が行わ

れました。県境を越えて工事が進んでいた大橋が、多くの島民たちが見守る中一つにつながった瞬間でした。

大橋完成を迎え感無量

Interview

元鷹島大橋架橋促進期成会会長
(元鷹島町長)

宮本 正則 さん
(鷹島・阿翁浦、78)



Miyamoto Masanori



最後の橋げたがつながったことを喜ぶ地元の皆さん



平成20年7月23日の最後の橋げたの接続工事

町長時代から取り組んできた「鷹島ダム」「鷹島モンゴル村」「鷹島肥前大橋」という三大プロジェクトが完成を迎えます。特に大橋建設は不可能だという意見もありましたが、苦節20年の末、完成を迎えることができ感無量です。通行料も無料になり、この橋がモンゴル村だけでなく鷹島を生かしてくれるものと期待しています。

開通までの流れ

昭和63年	鷹島大橋架橋促進期成会が設立
平成元年9月	鷹島大橋架橋基本調査委託
平成3年10月	肥前町、鷹島大橋架橋特別委員会設置
平成4年5月	肥前町、鷹島町議会特別委員会合同会議
平成4年7月	肥前町、鷹島大橋架橋促進期成会発会式
平成8年12月	平成9年度予算大蔵原案が内示され鷹島肥前大橋架橋が新規採択される
平成11年11月	一般県道鷹島肥前線橋梁整備工事(1工区)着工
平成14年4月	取付高架橋脚工事
平成14年11月	一般県道鷹島肥前線(道路部)竣工(一部を除く)
平成21年4月18日	開通



平成20年8月31日。閉会式でボルト締めを行う友広市長

【鷹島肥前大橋建設事業の概要】

- 事業主体 長崎県、佐賀県
- 事業名 一般県道鷹島肥前線 橋梁整備工事
- 工事期間 平成9年度～20年度
- 事業延長 5,130㍍
 - 内訳 長崎県陸上部 2,504㍍
 - 佐賀県陸上部 1,375㍍
 - 橋梁部 1,251㍍
- 橋梁部 1,251㍍のうち斜張橋840㍍
- 道路幅員(橋梁部) 車道部2車線6㍍
- 歩道部片側2㍍
- 全体事業費 約200億円
(うち長崎県分 約140億円)
- 補助率 国費 2/3 県費 1/3
- 負担区分 長崎：佐賀 = 2：1
- 通行料 **無料**